

JODCニュース

Japan Oceanographic
Data Center

No. 45

September 1992

- インド海洋データセンター
訪問記 p.1
- OCDW出席報告 p.2
- JOIDESコーナー p.4
- 特集：各分野での話題・
報告事項 p.5
- 「IOCの刊行物・文書保管
センター」から p.7
- TOPICS AND
INFORMATION p.9
- JODC刊行物一覧 p.13
- 海の相談室だより p.11



日本海洋データセンター
(海上保安庁水路部)

インド海洋データセンター訪問記

1992年2月にインド海洋データセンターを訪問しました。

JODC は科学技術庁「アジアモンスーンの研究」にデータセンターとして参加しています。

今回のインド訪問は同研究の一環として日本とインドの間で海洋データ交換を促進することになりました。



(写真：インド海洋研究所)

インド海洋データセンターはインド海洋研究所情報課が運営しており、同課の課長 DR. R. M. S. Bargava 氏がデータセンター所長をつとめています。

情報課は最近の組織改編でできたばかりの組織で、課長は海洋生物学の研究者で、海洋データ管理の専門家としては Sarupria 氏が従来から国際的窓口を務めてきました。

<インド海洋研究所>

インド海洋研究所は、インドの最も有力な海洋研究機関で、海洋物理、海洋地質、海洋生物等の海洋科学の全分野をカバーしています。

海洋研究所は、インドの西海岸のゴアにあります。ゴアの町はポルトガルの植民地であったために他の地方と少し違った文化が育ったそうです。ゴアは鉄鉱石の日本への積出し港となっていて、日本人が少し住んでいるほか、研究者や観測機器メーカーの技術者がたまに訪れるほどで、日本人は珍しいそうです。

インドは北部と南部でまったく異なる文化だそうですが、ゴアはそのどちらとも違うそうです。滞在中お世話になった Sarupria 氏は北部

出身ですが、ゴアの人々の温和な気質が気に入っているそうです。

海洋研究所は、2隻の研究船を運用して外洋の観測を実施しています。

1隻は研究所に所属する R. V. Gaveshani (1900 排水トン) で、1975年に就役し、最近では沿岸海域の観測を中心に運用されていましたが、老朽化してそのままならない状態となりつつあります。

もう1隻は、海洋開発省に所属し、研究航海の運営を研究所で行っている大型観測船 O. R. V. Sagar Kanya (4209 総トン) で、1983年に就役した新鋭船で、マルチナロービーム測深機(ハイドロスweep)を含む最新の観測装備を有し、インド洋北部の海洋調査を毎年実施しています。

海洋研究所は、西ドイツ、ソ連等との共同観測を長期にわたり実施し、インド洋の海洋調査に多くの成果をあげてきました。

<インド海洋データセンター>

インド海洋データセンター (INODC) は、所長を含めて総勢 14 名で、海洋物理、海洋生物、海洋地質、地球物理等の広い分野にわたりデータ管理を行っています。

データは、インベントリ (目録) レベル、文献資料レベル及びデジタルデータレベルでシステムティックに管理されています。

ハードウェアは、インベントリ管理にパソコンを使用し、観測データ管理に大型計算機を使用しています。大型電子計算機は、カナダの NORSK DATA 520 及び 1520 の 2 台が使用され、研究所の共用施設となっています。大型電子計算機はプロッター、デジタイザー等の基本的な周辺装置を備えていますが、それぞれの研究室に WS やパソコンが導入され、利用状況が悪くなってきているそうです。データセンターでもリモセンデータを管理するために、WS の導入作業を進めています。



(写真 データセンターのスタッフ)

海洋データの大部分は海洋研究所のデータで、水産関係の調査機関の観測データはインベントリだけが管理されています。潮汐データはインド水路部が管理しているそうです。

インド EEZ 水域については、海洋開発省と海軍の意向により、「国の方針として地球物理データと BT データを交換することができない」そうです。

もっとも、この方針は厳密なものでなく、また、1977 年以前のデータは規制の対象外だそうです。

海洋データの交換については、水温、塩分、流れ等の海洋物理データから取り組むことと

し、インベントリの交換から始めることが話し合われました。

さらに、インド側からインド洋海洋アトラスの共同編集の提案があり、日本に持ち帰り検討することになりました。

また、インドと日本との海洋学分野での交流はまだパイプが細く、研究所の研究者は、日本水路部が実施しているアルゴスブイによる海流観測等の日本がインド洋で実施する海洋観測に強い関心を示していました。

菊池 眞一

(現第二管区海上保安本部水路部長)

(写真：インドデータセンター所長)



海洋気候データワークショップ (OCDW) 出席報告

1992 年 2 月 18 日～21 日、NASA のゴッダードスペースフライトセンター（ワシントン郊外のメリーランド州グリーンベルト）において、海洋気候データワークショップ (OCDW) が開催され、JODC からは、谷、道田の 2 名が出席しました。

地球規模の気候変動に関する研究の推進が世界的な課題となる中で、気候変動の問題における海洋の重要性が広く認識され、多くの国際共同研究プロジェクトが実施されています。

現在実施中の、WOCE (世界海洋循環実験)、JGOFS (合同全球海洋フラックス研究) 等気候変動に関連する海洋の国際共同研究計画においては、観測データの迅速かつ効果的な流通が求められており、それぞれの計画毎にデータ管理の問題について検討が行われています。

また、1988 年には、IOC/IODE としての対応を検討するため、責任国立海洋データセンターと気候データサービスに関する会議が開催されました。この会議において、既存の海洋データ管理資源を有効に活用して新たな要請に応じていくためには、各種の研究プロジェクトの関係研究者とデータ管理の担当者を集めて直接議論することが必要であるとの観点から、海洋気候データ管理に関するワークショップの開催が勧告されました。

今回の会議は、この勧告を受けて開催の運びとなったものであり、IOC をはじめ、CEC (欧州共同体委員会)、ICES、ICSU、SCOR 及び WMO の共催となり、ホスト役は NOAA と NASA が共同で務めました。

会議には、気候変動がらみの研究を行っている海洋学者、各国のデータ管理関係者、関連国際機関の担当者等が約150人ほど出席し、研究者側からのデータ管理・流通システムに対する要望や、各データセンターの気候変動研究への対応ぶり等が報告されました。

討議の結果をまとめて、IOC等に対して次のような勧告を行うことになりました。

- ①データ管理者と研究者の協力体制の確立
- ②歴史データの整備
- ③世界データセンター(WDC)システムの改善
- ④データの評価システムの構築
- ⑤先進国と発展途上国との溝の解消
- ⑥数値モデルデータの管理手法の開発
- ⑦データ管理ソフトウェア、品質管理手法の流通
- ⑧上記の問題に関する専門家会議の開催

いろいろな発表の中で、最も印象に残ったのはロシアデータセンター所長の講演でした。

ロシアにおける利用可能データ等についての話の中で、ロシアの担当するWDC-Bの保有データの紹介があり、米国の担当するWDC-Aの保有データセットと比較して、特にインド洋のデータはWDC-Bの方が圧倒的に充実していることが示されました。

これは、WDC間でのデータ交換システムが十分に機能していないことを明らかにしたことになります。この講演がきっかけとなったのかどうか、会議の舞台裏ははっきりしませんが、WDCシステムの改善が勧告の一項に盛り込まれ、フリーなデータ交換体制確保の必要性が指摘されました。

また、とりまとめのセッションでは、理念的、包括的な勧告文に対して、より具体的な表現を求める異議が、IOC事務局のオリョウニン博士から再三にわたって出されました。

例えば、本ワークショップの主目的の一つである海洋学者とデータ管理者の協力体制の確立の項においては、当初案では「科学者は十分に品質管理されたデータを必要とする。」という表

現になっていましたが、これは自明のことであり、具体的な方策案を示すよう指摘されました。

後日送付された報告書では、具体策までは述べられていませんが、高品質データの作成とデータの迅速な流通のためには、科学者とデータ管理者の協力が必須であるというような書きぶりとなっています。

もう一つ重要なポイントは、海洋先進国と途上国の関係でした。

最近の海洋データ管理の中心的な話題は、「CD-ROMのプロダクツができて、パソコン上で美しい分布図などが見られるようになった。」とか、「データや情報のオンライン交換システムが完成した。」といったことで、データ管理のバラ色の未来を語る場面が目立ちます。

しかし、これらの成果を享受できるのは、計算機環境が良く、データ通信の基盤整備の進んだ一部の先進国に限られます。沿岸各国の大半は、パソコンの入手は不自由で、データ通信など思いもよらないのが現状です。WOCE、JGOFSをはじめ、海洋の国際研究プロジェクトの成功、ひいては地球環境保全の実現には、これらの途上国の参画が本質的に重要です。

そのため、一案として、欧米諸国で競って開発されたパソコン上で運用できる海洋データ管理システムを、ハードウェア、ソフトウェアを一体として、これらの国々に無償で提供することが効果的であると思われます。JODCは、アジアを代表する立場から、このような提案を行いました。

その結果、IOC代表から、「IOC自身の予算で物を配付することは困難であるが、信託基金によれば可能。」という、前向きな回答を引き出しました。この種の会議の出席者は、ほとんどが海洋先進国の人間であり、ともすれば途上国の参画を促すという観点が欠落しがちになります。JODCからの発言も手伝って、報告書にもこのような趣旨の提言が盛り込まれました。

(道田)

JOIDES コーナー

前回はみなさんに興味を持っていただくために、使って便利な2つの掲示板(「国内海洋調査一覧」及び「海洋略語辞典」)について紹介しました。今回は JOIDES の核心部にあたる国際研究プロジェクトグループ関連の掲示板について紹介します。

ご承知のとおり、現在、地球環境問題に関連した様々な国際共同研究が進められており、これらの研究では各観測データの相互利用を図り有効に活用させるためにリアルタイムでの情報・データの交換が求められています。

JODC ではこのような状況に対応して、パソコン通信による簡易情報交換システム「JOIDES」を整備し、平成3年5月から WOCE、JEXAM、JGOFS 等の国際研究プロジェクトに関する情報交換を中心とした運用を進めてきました。

現在、次の5つの国際研究プロジェクトに関する掲示板があり、国内の研究者等による情報交換の場として利用されています。

- 1) WOCE (World Ocean Circulation Experiment) 「世界海洋循環実験」
- 2) JEXAM (Japan Experiment on Asia Monsoon) 「アジアモンスーン機構に関する研究」
- 3) JGOFS (Joint Global Ocean Flux Study) 「全球海洋フラックス研究計画」
- 4) TOPEX/POSEIDON (Ocean Topography Experiment) 「トペックス・ポセイドン計画」
- 5) GOOS (Global Ocean Observing System) 「世界海洋観測システム」

それぞれのプロジェクトごとに、研究概要、観測調査の計画・実施状況、観測調査報告、関連会議・イベントの予定・出席報告、ユーザー便りなどを掲示しています。

なお、国際研究プロジェクトグループ関係者として登録されていない一般のユーザーの方も自由に各掲示板を覗き、プロジェクトの進行状況等を確認することができます。

```

=====
JODC Online Information & Data Exchange Service (JOIDES)

operated by

Japan Oceanographic Data Center (JODC)
=====

```

No.	Delivered	From	Subject	Lines
1	Sep 7	9:45 JODC, TOKYO	U. S. WOCE Science Steering Execu	5
2	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE Scientific Steering Group E	5
3	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	U. S. WOCE Working Group on Numer	5
4	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	Indian Ocean Marine Affairs Coup	5
5	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	TOGA/WOCE XBT/XCTD Prog Plan Com	5
6	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE Hydrographic Program, WHP-1	5
7	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE Data Management Working Gro	5
8	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	Workshop of Principal Investigat	5
9	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	Scientific Steering Group 13th M	5
10	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	Fourth International Conference	5
11	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	Upper Ocean Thermal Data Anseabl	5
12	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	North Atlantic WUP Data Workshop	5
13	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	Intergovernmental WOCE Panel, IW	5
14	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE Scientific Steering Group,	5
15	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE/TOGA-COARE/JGOFS-ED/PAC Pac	5
16	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE South Atlantic Conference	5
17	Sep 7	9:46 JODC, TOKYO	WOCE Scientific Steering Group,	5
18	Sep 16	19:22 STA, OCEAN	第2回研究推進委員会	10

```

Read WOCE > 18
----- JOIDES -----
研究推進委員会 (平成4年度第2回) を10月13日(火) 14:30~17:30、
科学技術庁第1会議室(2F)にて開催します。
議題は①第1期のまとめ、②第2期の研究計画について。
会議は原則非公開ですが、特に傍聴を希望される方は、10月6日までに
担当まで連絡して下さい。

担当: 科学技術庁研究開発局海洋開発課 長屋好治
Tel. 03-3581-5271内線485
Fax. 03-3581-7442

Read WOCE > 17
----- JOIDES -----
Subject: WOCE Scientific Steering Group, WOCE-21
Date: September, 1994
Place: Kiel, Germany
Contact: WOCE. IPO

```

* 一般のユーザーが「WOCE 掲示板」の会議・イベント情報を覗いた例

特集：各分野での話題・報告事項

ADCP のデータ処理プログラムの開発について

日本海洋データセンター(JODC)は、1991年に船舶搭載型の音響ドップラー流速計に関する責任国立海洋データセンター(RNODC)として承認され、今後、JODCが国際的にADCPデータの収集・管理およびデータの品質管理処理手法の開発等の役割を担うこととなっています。

JODCの属する海上保安庁の巡視船及び測量船の多くは、既にADCPを搭載していますが、巡視船の観測データについては、現在のところ、処理用ソフトが整備されていないこともあり、十分に利用されていません。

このため、JODCでは平成3年度に関係部署と協力し、データの有効利用および管理手法の基礎開発を目的とし、海上保安庁の保有船舶搭載のADCPについてデータ処理プログラムの開発を行いました。



(写真：ADCPデータ処理ソフトの表示画面)

このプログラムは、ADCPの生データをJODCの推奨するADCPフォーマットに変換し、自動的にデータの品質管理処理を行うことができ、さらに、対話形式で品質管理を行うことができます。対話処理では、水温・海流等の統計値と比較しながら行うことができるほか、地形の影響を見るため5分メッシュの水深と重ね合わせて流速矢符を表示させることができます。さらに、頻度解析、メッシュ統計等、様々な統計処理もサポートしています。

このプログラムは、機能の拡張を行えるよう設計されており、海上保安庁の各部署でプログラムの検証した後、操作性・機能の改良・追加等を行い、一般に公開したいと考えています。

IOCの「OCEAN PC」プロジェクトについて

IOCでは、海洋データ交換の促進および海洋データ処理の標準化を推進するため、1990年より「OCEAN PC」と称するプロジェクトにより、パーソナルコンピュータ上で利用可能な海洋データ処理プログラムおよびデータセットの開発を進めています。

現在までのところ、主なもので別表のようなパッケージソフトが公開されており、これらは、実費のみで入手可能なものです。

代表的なソフトとして、「ROSIN」や「ATLAST」があります。

「ROSIN」は、対話形式で簡単に海洋調査報告(CSR、旧ROSCOP)を作成することができ、検索機能も備えています。また、作成されたCSRは、当然フロッピーディスクなどの磁気媒体で他の機関等に送付することも可能です。

「ATLAST」はアメリカのワシントン大学で開発されたソフトで、IBMのPC-XT/AT互換のコンピュータ上で動作するものです(Macintosh版も開発されています)。このソフトは、コンピュータのディスプレイ上に各層データの測点図のほか、各観測項目間の散布図や各観測項目の鉛直分布図および鉛直断面図を作成することができ、鉛直断面図では断面での3次元表示が可能となっています。これらの図は、ユーザが観測したデータにより作成することができます。



(写真：ATLAST表示画面)

訂正：ATLASTとADCPの写真が逆になっていました。
おわびして訂正いたします。

- Title : Inventory of Moored Current Meter Data
 Author : British Oceanographic Data Center (1990. 2)
 Platform : PC/AT, EGA, 640 kb-RAM
 Summary : 北大西洋の係留系流速計に関する観測データのインベントリ情報の検索システム。
- Title : Global Ocean Temperature and Salinity Profiles ;
 Vol. 1 Atlantic, Indian and Polar Ocean. (NODC-02), 1991. 8
 Vol. 2 Pacific Ocean. (NODC-03), 1991. 12
 Author : US National Oceanographic Data Center
 Platform : PC/AT, EGA, 640 kb-RAM, CD-ROM
 Summary : 1900-1990 年における太平洋, 大西洋, インド洋および極海の水・塩分検索システム。
 データは CD-ROM に収められている。
- Title : ATLAST, an ocean atlas for IBM compatible computers
 Author : Jet Propulsion Laboratory (1991. 9)
 Platform : PC/XT, PC/AT, co-processor
 Summary : 各層観測データの海洋データアトラスおよび各種データ図作成プログラム
- Title : ROSIN, ROSEARCH : Inventory of Oceanographic Research Cruises
 Author : ICES Hydrographic Service (1990. 2)
 Platform : PC/AT, 640 kb-RAM
 Summary : 海洋調査報告 (ROSCOP) 用データ作成・検索システム
- Title : NERC Marine Atlas
 Author : Natural Environment Council, UK (1991. 1)
 Platform : PC/XT, PC/AT, EGA, 640 kb-RAM
 Summary : イギリス周辺海域における海洋データアトラス作成プログラム
- Title : ARGOS
 Author : NODC USSR (1991. 3)
 Platform : PC/XT, PC/AT, EGA
 Summary : 地球物理データのリレーショナルデータベース
- Title : SEAPLOT/Worldplot
 Author : SEAPLOT, NOS/COAP, USA (1991. 9)
 Worldplot, Minerals Management Service, USA (1991. 9)
 Platform : PC/XT, PC/AT
 Summary : 地球環境データアトラス作成プログラム
- Title : OceanAtlas for Macintosh
 Author : NOAA/PMEL, USA (1991. 12)
 Platform : Apple Macintosh
 Summary :
- Title : TOGA CD-ROM
 Author : International TOGA Project Office, WMO (1991. 8)
 Platform : PC/XT, PC/AT, CD-ROM
 Summary : 1985年, 1986年のTOGAデータ検索プログラム。データはCD-ROMに収められている。
- Title : ENTICE etc.
 Author : ICES Service Hydrographique (1991. 3)
 Platform : PC/XT, PC/AT, 512 kb-RAM
 Summary : 各層観測データのICESフォーマットデータファイルに関する処理プログラム

「IOCの刊行物・文書保管センター」から

前回到引き続きユネスコの発行する「海洋科学に関する技術論文」(UNESCO Technical Papers in Marine Science)のNo.62~No.63について紹介します。

NO.62 海水の塩分と比重：高塩分の表(42-50)

海洋学の表と基準に関する共同パネル(JPOT)は国連教育科学文化機構(UNESCO)、国際海洋探査協議会(ICES)、海洋研究科学委員会(SCOR)及び国際科学協会(IAPSO)と共同して1978年の実用塩分を定義し、国際海洋学の表に対応する第4版を発行した。

実用塩分は42まで定義されていたが、新しい電子伝導度方式により凝縮標準海水を用いて塩分は50まで定義できるに至った。

この表はこれらの方法の根拠により計算された方程式を用いて定義された。

これらの表で42~50の塩分、15~30°Cの温度において塩分の計算を、また、海水の密度アンマリーを得られる。

NO.63 沿岸システムの調査と容認し得る開発

この報告は沿岸システムの調査と容認し得る開発に関する会議(1991年5月21日から25日パリュネスコ)の討論の成果である。

この会議はユネスコの沿岸海岸(COMAR)計画によって設立され、国連環境計画(UNEP)、海洋研究科学委員会(SCOR)及び国際海洋生物学協会(IABO)の共同提案によるものである。

2つの基調講演に加えポスターによる紹介の他、30を越えるプレゼンテーションが行われた。

会議は地球規模の一層の調査の必要性和沿岸系機構の理解のための地域水位の勧告が採用された。

この議事録はユネスコ・テクニカルペーパーインマリンサイエンスシリーズに掲載される予定です。

新しく受領した文献のリスト

Reports of Meetings of Experts and Equivalent Bodies

- No. 2 Central Editorial Board for the Geological/Geophysical Atlases of the Atlantic and Pacific Oceans, 1984
- No. 8 IODE Group of Experts on Marine Information Management, 1986
- No.54 IOC Editorial Board for the International Bathymetric Chart of Caribbean Sea and the Gulf of Mexico, 1990
- No.77 ROPME-IOC Meeting of the Steering Committee for the Integrated Project Plan for the Coastal and Marine Environment of the ROPME Sec Area, 1992
- No.76 IODE Group of Experts on Technical Aspects of Data Exchange, 1992
- No.75 IODE Group of Experts on Marine Information Management, 1992
- No.74 UNEP-IOC-ASPEI Global Task Team on the Implications of Climate Change on Coral Reefs, 1992
- No.73 IOC Editorial Board for the International Bathymetric Chart of the Caribbean Sea and the Gulf of Mexico, 1992

Reports of Governing and Major Subsidiary Bodies

- No.44 IOC-FAO Intergovernmental Panel on Harmful Algal Blooms, 1992

- No.43 Joint IOC-UNEP Intergovernmental Panel for the Global Investigation of Pollution in the Marine Environment, 1992
No.42 IOC Regional Committee for the Central Eastern Atlantic, 1990

Reports of Governing and Major Subsidiary Bodies

- No.41 IOC Committee on Ocean Processes and Climate, 1992
No.40 Twenty-fifth Session of the Executive Council, 1992
No.39 IOC-WMO Intergovernmental WOCE Panel, 1992

Workshop Report

- No.80 PROGRAMME ON HARMFUL ALGAL BLOOMS
IOC-SCOR Workshop on Programme Development for Harmful Algal Blooms, 1991
No.79 IOC/WESTPAC Workshop River Input of Nutrients to Marine Environment in the Western Pacific, 1991
No.78 IOC-CEC-ICES-WMO-ICSU Ocean Climate Data Workshop, 1992
No.69 IOC-SCAR Workshop on Sea-Level Measurements in Antarctica, 1990

Technical Papers in Marine Science

- No.63 Coastal systems studies and sustainable development, 1991
No.62 Coastal systems studies and sustainable development, 1991

Report in Marine Science

- No.56 Geological and geophysical investigations in the Mediterranean and Black Seas, 1992
No.47 Temperate coastal systems of Latin America, 1987

Training Course Reports

- No.16 First IOC Training Course on the Applications of Satellite Remote Sensing to Marine Studies, 1990
No.15 IOC Advanced Training Course on Nearshore Sedimentation and the Evolution of Coastal Environments, 1992
No.14 IOC Training Course on Microcomputers and Management of Marine Data in Oceanographic Data Centres of Spanish-speaking Countries in the Caribbean Region, 1991

Manual and Guide

- No.24 Guide to Satellite Remote Sensing the Marine Environment, 1992
No.17 GF 3 A General Formatting for Geo-Referenced Data, 1987

Technical Series

- No.39 Bruun memorial lectures, Modelling and Prediction in Marine Science, 1991
No.32 Summary of radiometric ages from the Pacific, 1987
No.22 Scientific reports of the intercalibration exercise, 1992

■第7回北方圏国際シンポジウム参加

「北方圏国際シンポジウム」は、流水と氷海に関わりをもつすべての分野の研究技術情報が接触し交換され、相互にインパクトを与え合うことにより、流水域、氷海域の産業・経済の発展を図り、豊かで個性的な生活・文化を構築することを旨とするとともに、オホーツク文化の創造に向けての第一歩となることを願って、毎年、北海道紋別市で開催されています。

今年は第7回として1992年2月2日～5日に開催されました。

本シンポジウムでは、日本を含め、カナダ、中国、フィンランド、ドイツ、ロシア連邦、アメリカ等の国々の研究者の講演があり、JODCからは、「カナダとの北太平洋海洋データの交換」と題して、1988年以来、カナダ海洋科学研究所（ビクトリア）との間で行っている月毎の北太平洋の水温データの交換について発表を行いました。

■地球環境問題関連の講演会の開催

JODCでは(財)日本水路協会の協力を得て、8月11日に通産省工業技術院地質調査所の川幡穂高氏を講師として招き、「地質調査所における地球環境問題への取り組みについて」という演題で講演会を開催しました。

近年、二酸化炭素が原因と考えられる地球の温暖化問題が注目され、世界海洋循環実験計画(WOCE)や全球海洋フラックス研究(JGOFS)などの国際プロジェクトも開始されています。このような状況の中、JODCでもこれらのデータの管理方法を検討する時期にきているという認識から、海洋における物質の分布や輸送の把握に欠かせないセジメントトラップ(沈降物質を捕集する装置・手法)による調査を中心に川幡氏に講演を依頼しました。

地球環境は、我々の身近な問題であることか

ら聴講者も多く会議室の椅子を追加するほどの関心の高さでした。

■IGC(万国地質学会議)で講演

第29回万国地質学会議(International Geological Congress)が、8月24日から9月3日まで京都国際会議場で開催されました。これは、「地球科学のオリンピック」といわれている国際学会で、日本で開催されるのははじめてです。

前回は1989年にアメリカで開催され、次回は1996年に中国で開かれる予定です。

会議では、各地の地質構造やテクトニクス、地球の生成史、リモートセンシング、マッピング、防災、地球環境などなど、さまざまなテーマで最近の研究成果が発表され、世界各国の地質・地球物理学者が、京都の暑さに負けないうらい熱い議論を交わしました。

また、メイン会場の隣のホールでは地質調査機関などの展示会が催され、海上保安庁水路部も海の基本図などを展示して活動紹介にあたりました。

今回は、一般の講演とは別に、特に3つのスペシャルシンポジウムが用意されました。そのうちのひとつが、「国際地球科学プロジェクトの概要、特筆事項、進捗状況」というテーマで開かれ、JODC(日本海洋データセンター)はこの中で、「IOC-WESTPACプロジェクトの責任国立海洋データセンターとしての活動報告」を行いました。

JODCは、具体的なデータ管理状況やプログラムの紹介に加えて、以下のような話をしました。

「WESTPACはIOC(政府間海洋学委員会)のことで、国際オリンピック委員会のことではありません(?)の公式プロジェクトのひとつで、西太平洋海域において半永久的にさまざまな海洋調査を行っていかうというものです。JODCは、

Topics & Information

WESTPAC プロジェクトの責任国立海洋データセンターを担当しており、西太平洋海域における海洋データの収集管理に国際的な責任を持っています。この海域で海洋調査を実施した人は、クルーズサマリーレポート(以前は ROS-COP) と呼ばれる書式にしたがって、いつでもどんな調査をしたかということ JODC に報告することになっています。JODC は、受け取った報告をニュースレターとして刊行するとともに、JODC が運用している JOIDES (JODC

Online Information and Data Exchange Service) というテレメールネットワークの電子掲示板にも掲示しています。JODC にはたくさんのデータが保管されており、リクエストに応じて提供されていますので、どんどんご利用いただきたいと思います。皆様から送付されるクルーズサマリーレポートやデータが、より利用価値の高いデータセンターを作ります。データ交換システムが十分機能するよう、ご協力をお願いします。」

■ 中国海洋データセンターとの交流



日中黒潮共同研究のため、7月1日から7月14日まで中国海洋データセンターの周燕還さんが JODC において海洋データ

管理について共同研究を行った。

■ 図書館情報大の夏期研修



7月1日より3週間にわたり図書館情報大学の学生5名(男性1、女性4)が JODC で導入する顧客管理

装置のシステム設計のために業務分析実習を行った。

■ JODC 関係会議予定

【名称】 JRK 第2回シンポジウム・同第7回 WG 会議

【国名】 中国(青島)

【時期】 1992年10月27日～30日

【名称】 WOCE データ管理委員会

【国名】 ドイツ(ハンブルグ)

【時期】 1992年10月28日～30日

【名称】 海洋データ管理に関する国際ワークショップ

【国名】 日本(東京)

【時期】 1992年11月10日～12日

【名称】 第14回国際海洋データ・情報交換委員会(IODE)

【国名】 フランス(パリ)

【時期】 1992年11月30日～12月9日

【名称】 IOC 第2回西太平洋海域共同調査小委員会

【国名】 タイ(バンコック)

【時期】 1993年1月25日～29日

「海の相談室」だより

1. 海の相談室の誕生とその経緯

海の相談室は誕生して今年で足掛け9年目を迎えましたが、歴史をたどると日本海洋データセンター（JODC）の前身「海洋資料センター」が海上保安庁水路部に設置された昭和40年4月まで遡ることができます。

いうまでもなく、日本海洋データセンターは、わが国の海洋調査機関によって得られた各種の海洋データを一元的に収集・管理して、ユーザーに提供する我が国の総合的な海洋データバンクであり、国際間の海洋データ・情報の交換については国連・ユネスコの機関である政府間海洋学委員会の国際海洋データ・情報交換システムの日本の代表機関として、また各種の国際的な海洋調査プロジェクトのデータ管理に責任を持つ責任国立海洋データセンターとしても活動しています。

データセンターは、海洋データ・情報を収集・管理するだけでなく集めたデータ・情報をそれを必要としているユーザーに迅速に提供して二次、三次の利用を促進する責任を負っていることからデータ・情報の提供窓口として「閲覧室」を設けて海洋関係の文献・図面等の閲覧や各種の問い合わせに答えてきました。

しかしながら、近年の海洋利用・開発の進展、海洋性レクリエーションの普及等に伴い海洋情報に対するニーズが飛躍的に増加するとともに従来からの海洋に関わりのある方々だけでなく海水浴、釣り、潮干狩り、ヨット・モーターボート等海をレジャーの場として利用しようとするユーザーが増加するとともにその利用内容も多種・多様化してきました。

これらニーズに迅速・的確に答えるために昭和59年4月、従来の閲覧室を拡充・強化し、専任の職員を置くとともにその名称も誰でもが親しみを込め、気軽に利用できるように「海の相談室」と改め再出発しました。以来、年々利用者の増加をみて現在に至っております。

また、地域に密着した海洋情報・データの提供と地方の方々の便宜を図るため、平成2年までに全国の主要都市（小樽、塩釜、新潟、横浜、

名古屋、神戸、舞鶴、広島、門司、鹿児島、那覇の各市）にある管区海上保安本部水路部に海の相談室を開設しましたので地方在住の方々は最寄りの「管区海の相談室」をご利用下さい。

2. 最近の海の相談室の利用傾向

(1) 海洋レジャー関係

毎年春から夏にかけて、潮干狩りのための潮汐について主として電話による照会が多い。数年前から発行している「潮干狩りカレンダー」も例年その年の6月には、在庫がほとんど無くなる状況で、この期間の電話の照会は潮汐についてがその大部分を占める。

また、春から夏にかけてはヨットやモーターボートのための海洋データの提供依頼が多く、特に各種のレース開催時期は海の相談室への来室者も多くなる。特に、首都圏から近い相模湾や伊豆半島付近の情報に人気が集まる。このため、財団法人日本水路協会の海洋情報室では、相模湾・伊豆半島近海の水・潮流、各地の潮汐などを毎週金曜日に希望者に提供するとともに、この海域で開催されるレース用の情報提供も行っている。

その他は釣りのための潮汐情報提供依頼が多く、最近では釣りのための外国地域のデータ提供も増加している。

(2) 大学等教育機関・研究機関関係

大学・国の研究機関からの海洋データ提供依頼は、従来から主たる提供業務であったが、最近特に地球温暖化等の環境問題がクローズアップされるなかで、国際的な調査・研究計画の実施にともない、参加している我が国の関係機関からのデータ提供依頼が増加傾向にある。

また、卒業論文を作成するためにデータ等の照会・利用に訪れる大学生が増加している。

(3) 各種企業

測量・調査業者はもとより、最近では各企業の多方面への進出が目立ち、料理店がリポート開発を行うため、資料の収集に来室したり、大手電気会社が新しい機器開発のため、データの提供依頼をするなど提供先の多様化が目立つ。

また、国際・国内社会の動向に敏感に対応し、北方領土返還の兆しが見えるてくると北方領土関係資料の収集に来室する利用者が暫く続くという具合である。

(4) 出版関係

8月から9月にかけては、次年度の教科書や教育参考書等の編集が出版各社で行われると見え、これらの表紙又は参考図として海底地形鳥瞰図の使用願いが頻繁である。

3. 海の相談室の様態替え

平成3年7月から正面玄関近くに移りましたが、入り口が柱の陰になること、また、ドアを閉めていると鉄扉で窓が無いため利用者から「入りづらい」との声があり、最近、ガラス戸入りのドアに改修されました。

最初総ガラス製のドアを考えていましたが、防火の面から上半分が金網入りガラスの戸になりました。

それでも改修後は部外の利用者はもとより、職員からも「非常に明るく、入りやすい」と、好評です。



新装なった海の相談室



ドア外側からの海の相談室

J O D C 刊 行 物 一 覧

逐次刊行物

誌 名	創刊年月日	刊行号数
JODC ニュース	1971年3月	No.1~No.45 (半年刊)
国内海洋調査一覽	1972年12月	No.1~no.24 (年刊)
Oceanographic Atlas of KER	1980年3月	Vol.1~Vol.8 (年刊)
RNODC Newsletter for WESTPAC	1982年3月	No.1~No.10 (年刊)
海洋調査報告一覽 (国内海洋調査機関の情報)	1984年3月	1975年版~1991年版
日本近海海況図	1987年3月	1975年版~1991年版
Data Report of KER (Phase II)	1988年3月	No.1~No.4 (年刊)
日中黒潮共同調査研究海洋環境図	〃 年3月	Vol.1~Vol.4 (年刊)
RNODC ACTIVITY REPORT	1990年3月	

その他の既刊刊行物

誌 名	発行年月日
海洋環境図 (外洋編-北西太平洋)	1975年12月 (海洋資料センター編集)
国際海洋資料交換便覧 (第4版)	1978年3月
海洋環境図 (外洋編-北西太平洋II)	〃 年3月 (海洋資料センター編集)
海洋環境図 (海流編)	1979年3月 (海洋資料センター編集)
Data Report of KER (No.1~No.9)	〃 年9月
国内海洋調査船一覽	1981年3月 (JODC ニュース増刊号 No.11)
Guide to CSK Data (Apr. 1965~Dec.1977)	〃 年3月
海洋資料センター所蔵 資料目録	1982年3月 (JODC ニュース増刊号 No.12)
WESTPAC Data Management Guide	〃 年3月
海洋地質・地球物理データカタログ	1983年3月 (JODC カタログ No.2)
日本近海海流統計図	〃 年3月 (JODC SP No.1)
水深データカタログ	〃 年3月 (JODC カタログ No.3)
实用塩分と海水状態方程式	〃 年3月 (JODC ニュース増刊号 No.14)
WESTPAC データ管理ガイド	〃 年8月 (JODC マニュアルガイド No.1)
潮汐調和定数カタログ	1984年1月 (JODC カタログ No.4)
海底地形図 (北西太平洋)	〃 年3月 (JODC SP No.2)
沿岸海域海洋データカタログ (東京湾)	〃 年3月 (JODC カタログ No.10)
实用塩分と国際海水状態方程式	〃 年6月 (JODC マニュアルガイド No.2)
波浪データカタログ (測器観測)	〃 年9月 (JODC カタログ No.11)
沿岸海域海洋データカタログ (伊勢湾、三河湾)	1985年3月 (JODC カタログ No.14)
日本海洋データセンター所蔵文献目録 (国内編)	〃 年3月 (JODC カタログ No.15)
潮流データカタログ	〃 年3月 (JODC カタログ No.16)
沿岸海域海洋データカタログ (大阪湾)	〃 年3月 (JODC カタログ No.17)
海洋情報便覧	〃 年3月 (JODC SP No.3)
GF-3 マニュアル (国際海洋データ交換用IOC汎用フォーマット)	〃 年3月 (JODC マニュアルガイド No.3)
海流観測情報	〃 年10月 (JODC カタログ No.18)
日本海洋データセンター所蔵文献目録 (国外編)	1986年3月 (JODC カタログ No.19)
沿岸海域海洋データカタログ (瀬戸内海東部)	〃 年3月 (JODC カタログ No.20)
沿岸海域海洋データカタログ (瀬戸内海西部)	〃 年3月 (JODC カタログ No.21)
日本近海波浪統計図表	〃 年3月 (JODC SP No.4)
沿岸海のアトラス (瀬戸内海)	〃 年3月 (JODC SP No.5)
各層観測データカタログ	1989年3月 (JODC カタログ No.25)
海洋地球物理データカタログ (改訂版)	1990年3月
水深統合データカタログ	〃 年3月
日本近海海流統計図 (改訂版)	1991年3月

(表紙写真の説明)

気象庁舞鶴海洋気象台の海洋気象観測船「清風丸」の進水式が8月11日、石川島播磨重工業(株)東京第一工場で行われた。同船は、高層気象観測装置や表層海流計などの最新海洋気象観測装置を多数搭載した430トン型のハイテク海洋気象観測船(全長56メートル、速力12ノット)で、来年1月に竣工し、日本海において豪雪・豪雨の予警報のための海上気象観測や地球温暖化をはじめとする地球環境保全の監視に重要な海洋観測に従事する。

日本海洋データセンター「海の相談室」利用案内

■所在地 〒104 東京都中央区築地5-3-1 海上保安庁水路部内
日本海洋データセンター

「海の相談室」

電話：(03) 3541-3811
(内線738、749)

ファックス：(03) 3545-2885

テレックス：2522452 HDJODC J

■利用時間 月～金 9:05～17:20

■交通機関 地下鉄：日比谷線「東銀座駅」下車
(徒歩7分)

JR 線：「新橋駅」下車(徒歩15分)

都バス：「新橋駅」乗車(朝日新聞社または中央卸売市場行)
「朝日新聞社前」下車(徒歩1分)

「JODC ニュース No. 45」

—1992年9月刊行—

日本海洋データセンター

(JODC)

〒104 東京都中央区築地5-3-1
海上保安庁水路部

Phone : (03) 3541-3811 (代)

Fax : (03) 3545-2885

Telex : 2522452 HDJODC J

JODC